

よこかんみなみグリーンプロジェクト ～ 地域とのパートナーシップを目指して ～

東日本高速道路株式会社 正会員 ○本多 裕
東日本高速道路株式会社 小谷 充宏
東日本高速道路株式会社 渡辺 陽太

1. はじめに

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の一部である横浜環状南線（よこかんみなみ）は、横浜市内でも自然環境が比較的豊かな地域や住宅密集地を通過する路線である。そのため、建設に当たり自然環境の保全・復元・創出に向けた各種調査・検討を従前から実施しており、その一環として「よこかんみなみグリーンプロジェクト」を展開している。本稿では、本プロジェクトの概要や取り組み内容について報告するものである。

2. プロジェクトの背景

NEXCO東日本横浜工事事務所（以下、「当事務所」）が所掌する圏央道横浜環状南線（L=8.9Km、通称「よこかんみなみ」（図-1））は、平成7年4月に都市計画決定され現在事業中である。当事務所が既に建設を終えた横浜横須賀道路（L=37.0Km）では、道路としての機能だけでなく、道路が地域の自然に溶け込み、周辺環境と調和するよう様々な工夫をしてきた。その実績を引き継ぎ、横浜環状南線事業では、良好な自然環境を保全・創出した道路づくりを積極的に情報発信し、地域住民とのコミュニケーションを取りつつ、パートナーシップを図る「よこかんみなみグリーンプロジェクト」を展開している。

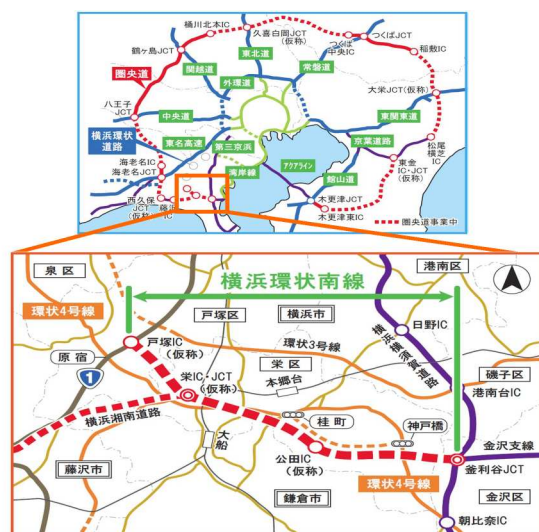


図-1. よこかんみなみ位置図

3. プロジェクトの内容

「よこかんみなみグリーンプロジェクト」は、道路としての機能だけでなく、地域社会との連携や生物多様性に配慮した自然にやさしい道路づくりを事業者と地域住民が一体となって進めていく取り組みである。当事務所が地域住民と協働して実践している様々な環境保全に関する活動の事例を以下に示す。

(1) 事業予定地内における苗木育成

横浜環状南線の緑化は、工事による改変区域や環境施設帯に地元で採取した種から育てた郷土種の苗木を植え、地域の生態系への影響をできるだけ小さくする計画である。種子は、NEXCO総研緑化技術センター（滋賀県）で発芽させ、数年育成したものを事業用地内に造成したグリーンセンター（育苗施設）へ植樹し、環境に順応させながら育成している（図-2）。これらの作業を地域住民の間近で当事務所社員が自ら行うことにより、住民との距離感を縮めている。



図-2. グリーンプロジェクト概略図

キーワード 環境教育, 地域協働, 環境創出, 緑化, 環境保全

連絡先 〒241-0833 神奈川県横浜市南本宿 21-1 東日本高速道路(株) 関東支社 横浜工事事務所 TEL045-352-3771

(2) 学校への環境教育支援

グリーンセンターへの植樹については、当事務所社員だけではなく、横浜環状南線沿線の小学生と協働しながら進めている。小学生を招いた「エコ体験会」と称する植樹活動では、植樹体験以外にも地球温暖化に関する学習会を開催しており、環境学習の場として活用されている。

また、植樹した苗木についても同様に、地元大学生と協働し、剪定作業をはじめとする維持管理作業（写真－１）を実施しており、小学生から大学生まで幅広いカテゴリーの環境教育支援を通して地域との協働を積極的に図っている。



写真－１．維持管理風景

(3) 環境保全事例を介した市民とのコミュニケーション

事業実施に伴い保全対象となる貴重な植物は、移植先の適正を確認するため試験移植を行い、追跡調査を実施している。また、建設により消失する池には、神奈川県の特産種であるヒメウキガヤやホトケドジョウ等の動植物が生育していたため、池の上流に同質の新たな池を整備し、自然環境の保全に努めている。このような取り組みを現場で地域住民に知っていただくため、公募参加型のエコハイキング（写真－２）を企画したり、定期刊行誌やPRイベントを通して多くの市民に紹介している。



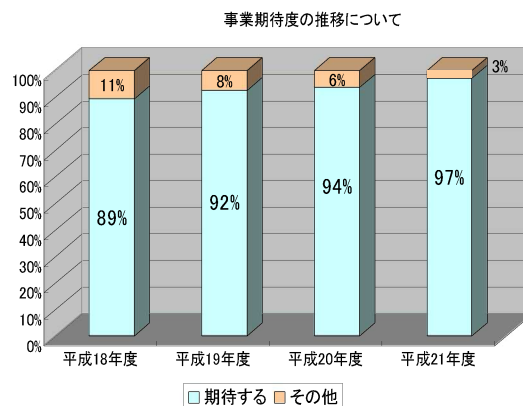
写真－２．エコハイキング

4. おわりに

生物多様性を意識した「自然にやさしいみちづくり」は、高速道路周辺における良好な自然環境の保全・創出に結びついている。そして、地域社会に環境保全の取り組みを全面にアピールする「よこかんみなみグリーンプロジェクト」を遂行した結果、横浜環状南線への利便性、周辺道路の渋滞緩和、CO₂の削減などに対する期待度は年々上昇し、当事務所が平成21年に実施したアンケート結果では、97%に至っている（図－３）。また、横浜環状南線が通過する地元横浜市栄区が平成22年に実施した区民のアンケート調査においても、道路完成に大きく期待している結果となった。これを反映するように、現在、事業用地買収率は70%を超え、地元住民の早期完成を望む声も大きくなり始めている。

このように地域とのパートナーシップを目指したプロジェクトを通じて、事業理解者が増加した成果は、高速道路事業への理解や土木のイメージアップに繋がり、延いては公共土木事業への社会的信頼に寄与している。

本論文を作成するにあたり、各種保全策の検討についてご指導を頂いた横浜環状南線自然環境検討委員会委員長である亀山章先生を始め、勝野武彦先生、鈴木邦雄先生に深く感謝するものである。



図－３．アンケート結果